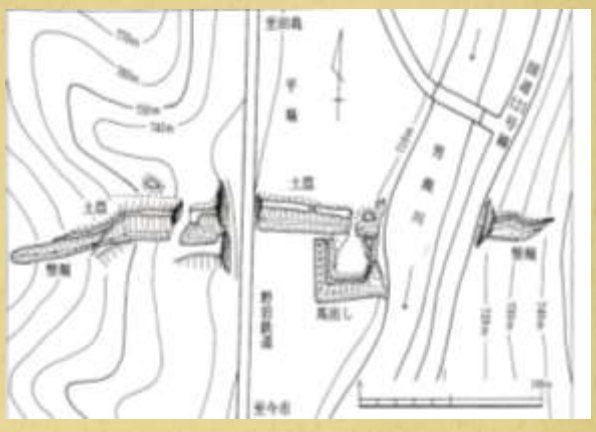
直江兼続が築かせた鶴ケ渕防塁跡

南会津町田島の鴫山（しぎやま）城とともに守りの拠点です

鶴ケ渕（つるがふち）防塁跡は、土塁や空掘、角馬出、竪掘が現在も残っています。下流約400mにある上三依集落内にも、川を塞き止めた時に築いた土塁跡があります。



図は、石田明夫が実測、トレースをしました。『神指城と関ヶ原』石田明夫 2001.10「会津若松市史研究」より

「白河口戦闘配備之図」米沢市立図書館蔵より。方位は上を北にしています。赤丸が鶴ケ渕防塁跡の位置になります。南山口とは、南山は田島を表していることから、田島口を示しています。「直江」3万人と書かれ、田島方面には重要な拠点であったことを分かります。

鶴ヶ渕防塁跡　栃木県日光市上三依・横川

『覚上公御書』慶長5年（1600）7月22日、直江兼続が弟の大国実頼に命じ鶴ヶ渕の普請を鹿沼右衛門（元鹿沼城主、与板衆）に申渡しています。長さ105m角馬出と二重土塁が造られています。街道を遮断し下流にも土塁を築き、湖のようにしました。敵が進攻したら、山上から石を落とすようなっていました。東側山頂には、16世紀中頃の特徴を持つ姥捨山城跡があり、見張りに使用していました。1868年の戊辰戦争では会津藩が再使用しています。文責　石田明夫